

① 幸区の概要

・幸区は川崎市の南東部に位置し、北に多摩川、南に鶴見川、西に矢上川と三方を川に囲まれている。平地の多い幸区だが、区域北西部には夢見ヶ崎動物公園のある標高約35mの加瀬山がある。

■ 幸区の名前の由来

・明治時代、区内の小向付近は梅の名所として有名だった。明治17年（1884年）に明治天皇がこの小向の梅林を行幸（御幸）したことにちなみ、明治22年（1889年）に市制町村制が施行されたときに「御幸村」と名付けられた。「幸区」の名称もこれに由来している。

・幸区役所では、「小向梅林」の復活を目指し、令和6年（2024年）の市制100周年に向けて平成27年度から植樹を行っており、現在では25種232本の梅を楽しむことができる。

■ 幸区のシンボルマーク

・幸区の頭文字「S」と無限大のマーク「∞」をイメージしている。二つの輪は、区民の深いつながりと伸びゆく情報発信を表し、地域の温かい人情と未来都市への無限の可能性にあふれた区を象徴している。



■ 幸区の区の花と区の木

・昭和47年（1972年）に川崎市が政令指定都市に移行し、行政区として幸区が誕生して、平成24年（2012年）で40周年になった。これを記念して「ハナミズキ」が区の花、「ヤマブキ」が区の木に制定された。

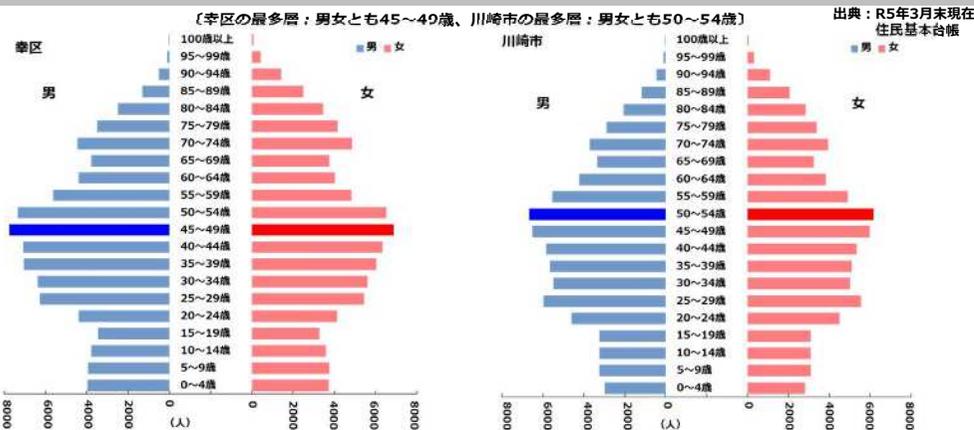


※区の花 ハナミズキ

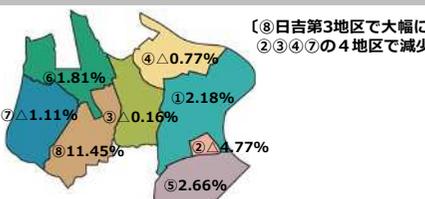


※区の木 ヤマブキ

③ 年齢別人口



⑥ 8地区別人口増減率



【⑧日吉第3地区で大幅に増加
②③④⑦の4地区で減少】

出典：「町別年齢別人口」

	人口(人)		増減数	増減率
	H31年3月末	R5年3月末		
① 御幸東第1地区	28,941	29,571	630	2.18%
② 御幸東第2地区	6,630	6,314	△316	△4.77%
③ 御幸西第1地区	28,170	28,124	△46	△0.16%
④ 御幸西第2地区	12,940	12,840	△100	△0.77%
⑤ 南河原地区	28,053	28,798	745	2.66%
⑥ 日吉第1地区	21,798	22,193	395	1.81%
⑦ 日吉第2地区	19,639	19,421	△218	△1.11%
⑧ 日吉第3地区	22,700	25,300	2,600	11.45%

⑦ 年齢区分人口比率（上位5町丁）

出典：「町別年齢別人口」

	H31年3月末現在			R5年3月末現在		
	町丁目	割合	地区	町丁目	割合	地区
65歳以上人口比率	1 河原町	54.3%	御幸	1 河原町	53.2%	御幸
	2 小倉	30.8%	日吉	2 小倉	37.2%	日吉
	3 東古市場	30.0%	御幸	3 東古市場	30.3%	御幸
	4 古市場2丁目	29.1%	御幸	4 古市場	28.7%	御幸
	5 古市場	28.6%	御幸	5 小向町	28.6%	御幸
	(幸区平均)	21.6%		(幸区平均)	21.4%	
	(川崎市平均)	19.8%		(川崎市平均)	20.2%	
15歳未満人口比率	1 新小倉	30.1%	日吉	1 新小倉	31.5%	日吉
	2 新小倉	26.3%	日吉	2 新小倉	22.9%	日吉
	3 塚越1丁目	21.4%	御幸	3 塚越1丁目	22.3%	御幸
	4 古川町	19.1%	御幸	4 戸手4丁目	18.9%	御幸
	5 北加瀬2丁目	18.6%	日吉	5 小倉1丁目	18.7%	日吉
	(幸区平均)	13.5%		(幸区平均)	13.2%	
	(川崎市平均)	12.9%		(川崎市平均)	12.1%	
5歳未満人口比率	町丁目	割合	地区	町丁目	割合	地区
	1 新小倉	21.4%	日吉	1 新小倉	21.3%	日吉
	2 塚越1丁目	11.8%	御幸	2 小倉1丁目	7.8%	日吉
	3 小倉1丁目	10.1%	日吉	3 鹿島田1丁目	7.18%	日吉
	4 鹿島田1丁目	9.5%	日吉	4 塚越1丁目	7.17%	御幸
	(幸区平均)	7.5%		(幸区平均)	7.1%	
	(川崎市平均)	5.0%		(川崎市平均)	4.5%	
	(川崎市平均)	4.5%		(川崎市平均)	3.8%	

② 人口・世帯数

【幸区の人口増加率は市全体の増加率より高い】

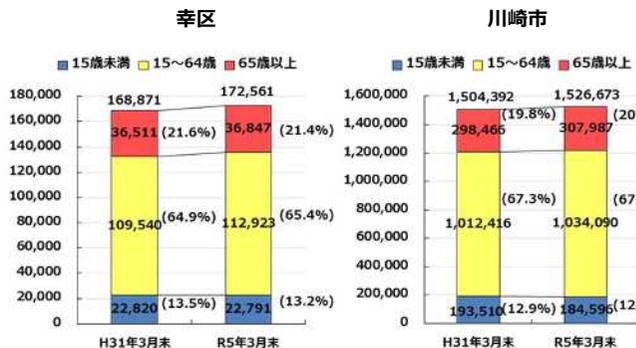
出典：住民基本台帳

	H31年3月末現在	R5年3月末現在	増減数	増減率
幸区の人口	168,871 人	172,561 人	3,690 人	2.19%
幸区の世帯数	82,727 世帯	86,486 世帯	3,759 世帯	4.54%
幸区の面積	10.09 km ²	10.09 km ²	—	—
幸区の人口密度	16,736 人/km ²	17,102 人/km ²	366 人/km ²	2.19%
市全体人口	1,504,392 人	1,526,673 人	22,281 人	1.48%
市全体世帯数	746,239 世帯	783,741 世帯	37,502 世帯	5.03%

④ 人口の推移（年齢3区分）

【R5年3月末の幸区の年少人口割合及び高齢者人口割合は川崎市より高い】

出典：住民基本台帳



⑤ 平均年齢

【幸区の平均年齢は4位】

出典：「川崎市年齢別人口」 R5年10月1日現在

	総数	男	女
川崎市	44.5 歳	43.4 歳	45.6 歳
川崎市	45.8 歳	44.7 歳	47.0 歳
幸区	44.7 歳	43.3 歳	46.1 歳
中原区	41.9 歳	41.1 歳	42.7 歳
高津区	44.0 歳	42.9 歳	45.2 歳
宮前区	45.3 歳	44.0 歳	46.5 歳
多摩区	44.0 歳	42.9 歳	45.2 歳
麻生区	46.7 歳	45.4 歳	47.9 歳

⑧ 幸区の外国人人口推移（管区別）

【外国人人口は8年間で約54.8%増加】

出典：「川崎市管区別年齢別外国人住民人口」

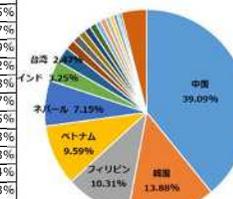


⑨ 幸区の国籍・地域別外国人市民の数

【中国、韓国で約53%を占める】

出典：市民文化局 戸籍住民サービス課資料 R5年3月末現在

国籍・地域	外国人市民の数	割合
中国	2,312	39.09%
韓国	821	13.88%
フィリピン	610	10.31%
ベトナム	567	9.59%
ネパール	423	7.15%
インド	192	3.25%
台湾	146	2.47%
米国	88	1.49%
ペルー	72	1.22%
タイ	64	1.08%
ミャンマー	63	1.07%
インドネシア	62	1.05%
バングラデシュ	49	0.83%
朝鮮	49	0.83%
ブラジル	44	0.74%
モントリオール	37	0.63%
フランス	33	0.56%
スリランカ	22	0.37%
英国	22	0.37%
他の国籍・地域	239	4.04%
総数	5,915	—

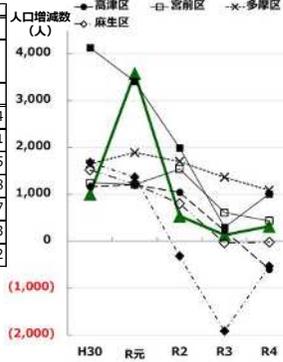


⑩人口動態

〔年ごとに順位に変動があるが、R4年の幸区の人口増数は7区で4番目〕

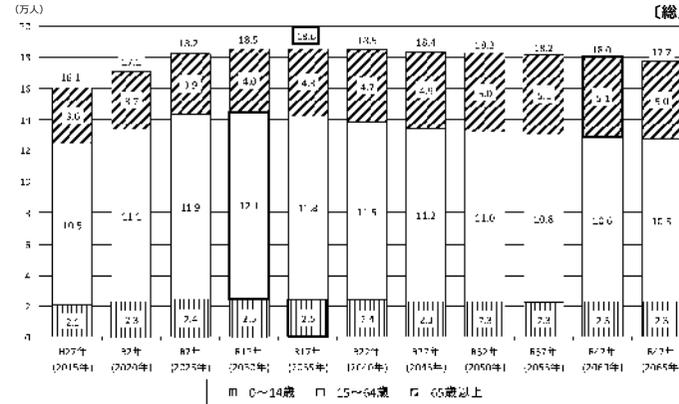
出典：川崎市統計書

	H30	R元	R2	R3	R4	自然増減			社会増減		
	人口増減	人口増減	人口増減	人口増減	人口増減	A	B	C	D	E	F
川崎市	12,399	13,890	7,307	692	1,691	△ 2,092	11,556	13,648	3,783	104,623	100,840
川崎区	1,680	1,371	△ 314	△ 1,917	△ 535	△ 1,338	1,392	2,730	803	15,657	14,854
幸区	1,009	3,584	537	136	318	△ 209	1,522	1,731	527	10,718	10,191
中原区	4,128	3,408	1,989	297	1,005	551	2,397	1,846	454	21,669	21,215
高津区	1,165	1,204	1,045	229	△ 598	△ 142	1,807	1,949	△ 456	15,832	16,288
宮前区	1,245	1,208	1,541	612	434	△ 320	1,631	1,951	754	13,921	13,167
多摩区	1,649	1,891	1,703	1,366	1,088	△ 114	1,724	1,838	1,202	16,625	15,423
麻生区	1,523	1,224	806	△ 31	△ 21	△ 520	1,083	1,603	499	10,201	9,702



⑪幸区将来人口推計

〔総人口は2035年にピークを迎え、その後減少〕



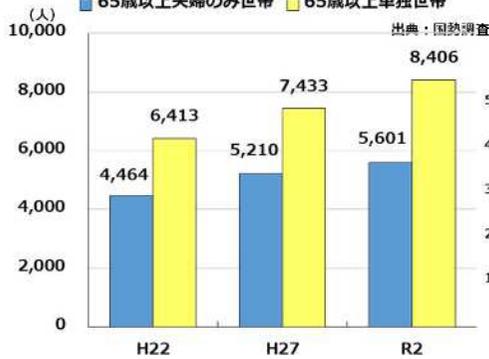
出典：川崎市総合計画第3期実施計画の策定に向けた将来人口推計（最新版）（R4年4月）

総人口のピーク：2035年頃 約18.6万人
 老年人口のピーク：2060年頃 約5.1万人
 生産年齢人口のピーク：2030年頃 約12.1万人
 年少人口のピーク：2035年頃 約2.5万人

⑫幸区の65歳以上夫婦のみ・単独世帯の推移

〔65歳以上夫婦のみ：10年間で約25.5%増加〕
 〔単独世帯：10年間で約31.1%増加〕

■ 65歳以上夫婦のみ世帯 ■ 65歳以上単独世帯

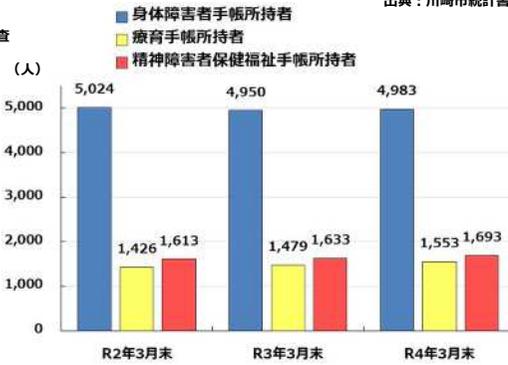


出典：国勢調査

⑬幸区の障害者数の推移

〔療育手帳所持者数及び精神障害者保健福祉手帳所持者数は増加傾向〕

出典：川崎市統計書



⑭土地利用状況

〔幸区は農地、山林が少ない〕

土地利用分類	幸区	項目								
		農地	山林	河川等	河川敷等	建築用地	公共空地	民間空地	その他の空地	道路用地
構成比 (%)	0.4%	0.4%	5.1%	2.5%	63.3%	3.9%	2.5%	3.4%	15.9%	2.7%
	川崎市	3.8%	4.0%	3.7%	2.7%	61.8%	3.6%	1.0%	14.2%	1.4%

〔幸区は川崎市全体と比較すると集合住宅用地の割合や容積率がが高く、土地が高度利用されている〕

R2年度都市計画基礎調査より作成

	幸区	川崎市
住宅用地分類構成比 (%) ※1		
戸建て住宅用地 ※2	48.5%	55.4%
集合住宅用地 ※2	51.5%	44.6%
幅員4m未満道路延長率 (%) ※1	20.4%	19.6%
建ぺい率 (%) ※1	46.9%	40.5%
容積率 (%) ※1	141.6%	99.2%
木造率 (%) ※1	40.8%	42.1%
木造老朽率 (%) ※1	60.5%	55.2%

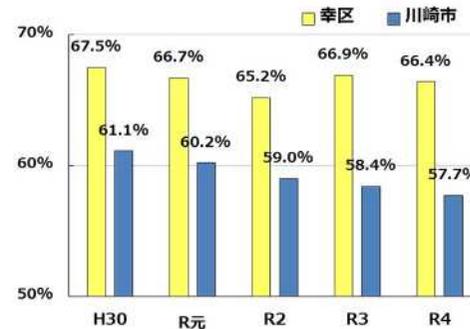
※1：R2年度都市計画基礎調査より作成

※2：店舗・作業等との併用含む

⑮町内会・自治会の世帯加入率

〔川崎市全体は減少傾向だが、幸区は横ばい傾向〕

出展：市民文化局コミュニティ推進部市民活動推進課資料（各年4月1日）

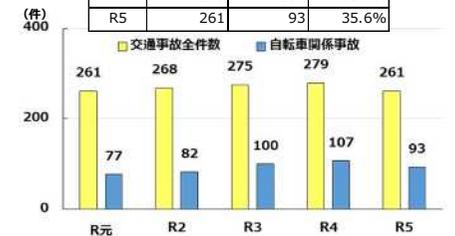


⑯幸区の特徴

〔幸区は自転車関係事故の割合が約1/3〕

幸区の自転車事故発生件数の交通事故全体に占める割合

	交通事故全 件数	自転車関係 事故	自転車関係 事故の割合
R元	261	77	29.5%
R2	268	82	30.6%
R3	275	100	36.4%
R4	279	107	38.4%
R5	261	93	35.6%



出典：市民文化局市民生活部地域安全推進課

⑰所有関係別住宅比率

〔幸区は公営住宅割合が7区で最も高い〕

	平成30年住宅・土地統計調査						
	持家	公営住宅	UR・公社	給与住宅	民間借家 (木造)	民間借家 (非木造)	不詳
川崎市	48.0%	2.9%	1.7%	2.9%	9.3%	35.1%	—
川崎区	47.8%	1.3%	1.8%	3.3%	7.7%	34.5%	3.7%
幸区	45.4%	7.3%	2.5%	3.7%	6.6%	29.6%	4.9%
中原区	40.8%	0.6%	0.9%	4.1%	8.1%	41.8%	3.8%
高津区	44.4%	4.4%	1.2%	2.8%	9.1%	35.8%	2.3%
宮前区	59.0%	4.1%	0.3%	2.5%	7.3%	25.1%	1.8%
多摩区	36.4%	2.1%	2.3%	1.3%	12.8%	39.7%	5.3%
麻生区	61.1%	0.5%	3.6%	1.5%	10.3%	19.2%	3.8%

※市全体の構成比は不詳分を含む修正値

⑱公営住宅

〔幸区は公営住宅戸数が2番目に多い〕

	市営住宅戸数	県営住宅戸数	合計 (戸)
川崎市	17,375	4,107	21,482
川崎区	1,283	156	1,439
幸区	3,862	1,674	5,536
中原区	697	95	792
高津区	4,597	705	5,302
宮前区	4,442	1,265	5,707
多摩区	2,107	56	2,163
麻生区	387	156	543

